

499

特 250

610

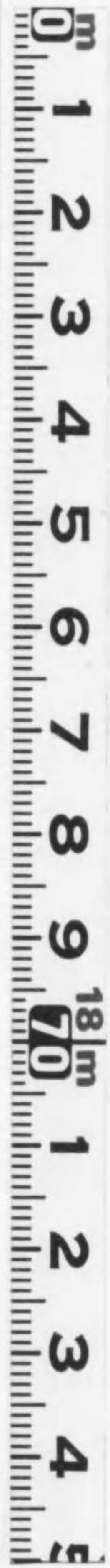
本

最近に於ける

ソ聯の情況



11. 8. 27



始



持250
670

本書は從來屢々歐洲に派遣せられ殊に本年三月まで大使館附武官として「ソ」國に駐在し同國の已往並に現在諸情に關し最も通曉されたる現陸軍省新聞班長歩兵大佐秦彦三郎氏が最近口述せられしところ誠に時局を正解せんが爲めの一好適資料たるを思ひ茲に同大佐の承諾を得之を印刷に附し特に全國分會に配布すること、せり。

昭和十一年八月

帝國在郷軍人會本部

目次

一、緒言.....	一
二、「ソ」聯の軍事.....	四
イ 正規兵第一主義に轉向.....	五
ロ 幹部の階級制度復活狀況.....	九
ハ 國境兵團を戰時編成に.....	三
ニ 航空機と戰車.....	四
ホ 赤軍の能力.....	七
ヘ 高級將校の横顔.....	八
三、強化さるる國力.....	三
四、民心安定の程度.....	三
五、西隣諸國との關係.....	三〇
六、對日感情の變轉.....	三三



イ なかく／＼神經過敏だ……………三二

ロ 二・二六事件の與へた影響……………三三

ハ 大膽になつた彼等の言動……………三六

ニ 世界へ排日宣傳をやる……………三九

七、極東武裝の姿を視る……………四一

最近に於ける「ソ」聯の情況

陸軍省新聞班長 秦 彦 三 郎
陸軍歩兵大佐

一、緒 言

近年「ソ」聯邦は益々其の獨裁的政治經濟機構の基礎を固めつゝ、一步一步堅實に而も相當迅速なテンポを以て、國力の進展を圖つて居り、其の進歩の過程新政策の適用等洵に目醒しいものがある。但し「ソ」聯邦に於ける進歩發展と云ふものは、資本主義國家に於けるが如く所謂自然の發展に委すことなく強力無比なる獨裁政權の意志に依り、人爲的に之を強行して行くのであるから、其の進歩の状態は今日尙依然として跛行的狀態を呈して居るのであり、個々の事象を詳細に觀察すると

尙幾多の缺陷があるのである。

先づ本論に入る前に一二概括的に述べたい事は、從來「ソ」聯邦は共產主義を實施して居る國である如く考へて居る向が相當澤山ある様であるが、現在の「ソ」聯邦は決して共產主義を實施して居るのではない。従つてそこに何等分配の公平もなく、各人は自己の能力に應ずる報酬を得て居るのであつて、各人の生活は千差萬別である。之に對し政府當局も共產主義は吾人の理想である、此の理想に到着する一階程として、社會主義的建設に邁進して居るのであつて、之が完成を見たら逐次共產主義に進むのであると説明して居るのである。

又今回の改正憲法草案にも、各人は其の勞働の量と質とに應じて報酬を受けると云ふ事を明示して居るのであり、従つて上はスターリンより下は一勞働者、一農民に至る迄一億數千萬の人民が全部サラリーマンに化して居るのである。唯個人資本の活動は如何なる形式に於ても之を許可しない點が他の國と異つて居るだけである。

次は現在の「ソ」聯邦政府は有史以來稀に見る強力なる政府である。即ち國家の全權力、全資源、全金力を政府が確實に握つて居る。従つて民間には何等の資本も介在して居らない譯で、所謂資本家なるものは政府以外に一人もない。而も唯一の資本家たる政府が其の建設事業を行ふに當つては、所謂重點主義を採用して必要の點に國家の全權力、全金力を集中し、各個擊破の原則に依り一つ一つ物言を解決して行くのである。従つて政府の重點を指向して居る點を見ると其の規模の大なること、其の勢ひの猛烈なることは到底他國で見る事の出来ない有様である。又斯くの如く統制せらるると我々の一家の經濟に似て居るのであり、一億數千萬の人民は政府の家族であり、居候となつてゐる。此等の家族が食ひたいだけ食ひ、飲みたいだけ飲んで居つては一家の經濟は成立しないことは勿論何等の建設事業も出来ないことは明瞭である。従つて彼等は國民の消費量を最小限度に制限

し、其の餘力を全部國家の建設事業に集中したのであつて、斯くの如くして棟上をやつたのが第一次五年計畫であり、之に造作をやつたのが第二次五年計畫である。

二、「ソ」聯の軍事

建國以來彼等が最も力を盡し、絶へず國家の重點を指向したのは申す迄もなく國防問題であるが、最近數ヶ年に於ける赤軍の充實擴張の目醒ましいことは驚くべきものである。從來「ソ」聯邦は其の主義理想から云つて軍の基幹を民兵に置いて之に一部の正規軍隊を附加する所謂民兵第一主義を標榜し、之に依つて革命後着々整備充實を進めて來たのであるが、民兵に對する十數年間の經驗と、最近に於ける國際情勢の逼迫、並に近代戰の突發性に鑑みて、民兵制度に依つて國防を全うすることは到底不可能である。各列強が行つて居る通りに正規兵主義でなければ

ばいけないと云ふ事に氣が付き、遂に本年度から正規兵第一主義を採用することになつて、各種の編制改正を行ひつつある。

イ、正規兵第一主義に轉向

その兵力に就て云へば、從來は正規兵力は五十六萬内外しか持つてゐなかつたのを、昨年度末には九十四萬まで増加した。この増加擴張が終るや否や、更に本年度から、前述の如く正規兵第一主義を採る爲に、正規軍の總兵力を百三十萬に擴張した。即ち昨年度に比しても既に四十萬、數年前に比すれば二倍以上に擴張した。これにゲー、ペー、ウーの軍隊並に一部民兵交代部隊を加へると優に百五十萬を超える數になつた。

従つて其の軍事費も非常に尨大になつて來て、一九三三年までは十五億内外の軍事費で満足して居つたものが、一昨年の一九三四年には五十億に増加し、更に

昨年度に於ては八十二億に増加し、本年一月に査定せられた軍事豫算は遂に百四十八億、約百五十億といふ老大な數字を示すに至つた。現に彼等は此の百五十億に垂んとする軍事費に依つて逐次軍備の擴張に邁進して居る。しかも本年度果して百五十億で満足するかと云へば、更に三十億ぐらゐる殖えるのではないかと思ふ。と云ふのは、一九三四年の年度始めに於ける軍事費の豫算は約十八億であつたのが、實際年度末までには五十億の金を使つた。更に昨年度は、年度始めの査定額は六十三億内外であつたのが、年度末には八十二億を使つて居る。従つて本年度の査定額百四十八億も年度末までには相當に額が増加するものと見るべきである。

民兵制度から正規兵主義に轉向することは實は非常な大事業であつて、勿論「ソ」聯は其の獨裁機構に依つて、また最近の國際關係の逼迫といふ關係からして、我々が想像する以上にテンポが早からうとは思ふが、併し之は彼自身に於て

も相當困難が伴ふものと思つて居る。一例を擧ぐれば兵營の建築の如き、從來は民兵制度は、基幹部の爲に要する一部の兵營と、交代部隊に要する裝具、武器、彈藥を納める倉庫さへ持つて居れば宜かつたのであつて、所要の教育は、交代部隊を野營に召集して天幕下に於て行つて居たのである。併し愈々これを正規軍に改編するには多數の營舎を建てなければならぬ。今日までの民兵師團の總數と正規師團の比は、民兵が七十幾つ、正規兵が二十幾つであつたが、今回の改編に依つて、正規師團が四十幾つ民兵師團が二十三になつた。従つて五十箇師團内外に要する兵營を一舉にして造らなければならぬから、之は大變な騒ぎであり又非常な努力を要するものとなつて居る。人員の方は、「ソ」聯のことであるから比較的容易である。昨年暮には九十四萬の案に一致すべき初年兵を入營させたのであるが、本年度から愈々百三十萬に増加された爲に、本年の三月から、私の出發する四月末までの間に於て、昨年度入營の殘餘の壯丁を全部召集して、それでも數に

不足を生ずる爲に、一昨年度即ち現在の二年兵と同一年次の壯丁で未だ入營しなかつた者までも召集して漸く兵員の充足を圖つて居るやうな有様である。しかも之は結局初年兵だけの兵員が充實したのであつて、全體の兵員充實、即ち百三十萬が完成するのは明年度の初年兵入營以後であらうと思ふ。

斯くの如き擴張に次ぐ大擴張を行ふ結果、自然、幹部の人的要素の低下することは免れない。單に中少尉に就いて考へても、斯くの如き大擴張に伴ふ所の中少尉を一擧にして士官學校出身の中少尉を以て補充することは出来ない。勢ひ現下の情勢に於ては、下士官或は兵卒の中から優秀なる者を拔擢して、之に速成の教育を施して幹部を補充すると云ふことは已むを得ない事であるし、また事實に於ても一年前からそれに着手して居つたやうである。この幹部の人的要素の向上といふ事には彼等も非常に頭を悩まして居る。その一二の例を擧ぐれば、從來士官學校生徒の採用資格は、赤軍建軍の本旨に副ひて、成るべく勞働者或は貧農の子

弟を入れることに努めて居つたが、その結果は、學力その他の素養を低下して、卒業した幹部は餘り役に立たない。そこで本年度からはさう云ふ方面に拘泥せず、士官學校の受験資格を、七年級卒業以上の者でなければならんと云ふことに規定し、また士官學校全般に亘る教育の刷新とか、試験制度の嚴密とか、色々な規定を設けて居る。殊に學年試験の如きは學校長が試験委員長になつてやることを認めて居るが、卒業試験は學校の職員は全部除外して、中央部或は他の軍管區の試験委員を以て編成して、試験を極めて嚴密にして採用資格を決定すると云ふやうに變つて來た。

ロ、幹部の階級制度復活狀況

また從來の幹部に對しては、昨年歸朝した際に、「ソ」聯は軍隊に於ける階級制度を復活し、將校たる身分を保障し、安心して軍務に従事し得る方法を講じたこと

云ふことを述べて置いたが、現在に於ては既に上は元帥より下は少尉に至る各種の階級が出来、將校の終身官の制度を復活した。併し此の階級復活にしても極めて嚴密なる考科をやつて居る。即ち全軍將校の三分の一餘が階級を貰つて居る丈で、全部の階級變更を終了してはゐない。この階級附與に就ては、あの獨裁機構の極めて簡單明瞭なる方針に依つて、即ちヴォロシロフが、階級の附與は隊附年限並に其の隊附した職務に依つて決定しろと云ふ命令を出した。さう云ふ方針であるが、隊附をして居つた者は相當、現在の職務よりも餘り下がらぬ……下がつても一階級ぐらゐるものを貰つたのであるが、中央に勤務して居る者、即ち國防省、陸軍省、參謀本部等に勤務して居つた者は非常な打撃であつて、人に依つては三階級四階級、少なくとも一階級二階級は落された。例へばヴォロシロフ元帥の高級秘書官などは、軍管區司令官と同じで大將の資格を持つて居つたのであるが、隊附してゐないと云ふので、一度に大佐に落されてしまつた。また吾

吾外國武官係で中佐の階級の者が二人居つて、一人は昨年士官學校の生徒隊からやつて来て、相當隊附もして居り成績も良かったのであるが、之は反對に大佐になり、同じやうに勤めて居つた中佐は、フランス語が上手で終始外國武官の係として活躍をして居たが、隊附が少なかつた爲、一擧にして中尉に落された。さう云ふ例は非常に澤山ある。もつと酷い例は、日本に第一回に駐在武官で来て居つたヤーネルといふ人は、日本から歸つて航空兵科の少將の階級で居つたが、今回行つて見ると、まだ階級を貰はずに居るから、お前は どうして階級を貰はないのかと聞いたら嫌な顔をして居つた。それで他の者に聞いたら、ヤーネルなどは飛行機にも乗らないし隊附もしないし、階級の當てようがないじやないか、もう一遍やり直さなければ駄目だと言つて居つた。斯様に一旦決定すると、上から下まで徹底的にやる所が「ソ」聯の政治機構の特徴である。要するに隊附の將校は相當満足して居るが、中央部に居つた者は不利を受けて居る。

ハ、國境兵團を戰時編成に

「ソ」聯は民兵第一主義から正規兵第一主義に轉向すると同時に、即ち近代戰の突發性に鑑みて、一朝有事の際に、最少の兵員と器材を補充すれば直に作戦行動に移り得る準備をする爲に、國境各地にある兵團を總て戰時編成に近いものに改編した。その結果、現に今回私がウラジオ經由で歸る途中に於ても、本年三月頃に召集した新しい初年兵を極東の方にどん／＼送つて居るのを見受けた。それと同時にコルホーズ師團の配置であるが、從來は極東方面だけであつたのが、今やヨーロッパ方面にも逐次現はれて來た。即ち「ソ」聯の兵力配置は、國境の第一線は國境ゲー、ペー、ウーに依つて監視をし、その後方若干の地帯は、所謂コルホーズ師團、言ひ換へれば屯田兵制度を執つて、その要點には戰略配備を以て各部隊を配置して居る。

平時の兵力配置を調べると云ふことは、戰時に於ける大體の方針が判るので、「ソ」聯は平時配置を秘匿する點には非常に努力を拂つて居る。現に日本から四人ばかり在勤して居るが、例へば「近衛第何聯隊誰某」と書いたのでは郵便物は絶對に届かない。「國防省第何號誰某」と出せば届く、他の國では平時配置は殆んど開けつ放しであるが、「ソ」聯は斯様に平時配置を秘する事にさへ非常に苦心して居る。之は單に軍事に限らず、總てに亘つて秘密にされ、言論は統制されて居るので、向ふに居てさへ、何事も調査が極めて困難である。之に反して、日本に對して「ソ」聯は、日本内地に於ける一般言論の統制も取れてゐないし、檢閲も不十分であるし、特に各階級の人によく接觸する機会が多いと云ふやうな譯で、日本内地の事情は向ふに手に取るやうに判つて居る。この點は日本としても何とかしなければならぬ。例へば二・二六事件の後、ベルシャか何處かでの夜會の時、參謀總長のエモーロフといふ人に會つた。その時は丁度新聞に、荒木閣下以下軍

事參議官が辭められたと云ふ記事が出てから二三日してからであつた。其の時に色々話が出たのであるが事件に關係した將校の舉措進退に關しては日本の新聞に出てないことは勿論、吾々將校でも初耳な微に入り細に入ったことを知つて居り、半信半疑で歸つたのであるが、歸朝してそれが本當だと解り大に驚いてゐる状態である。

二、航空機と戦車

次は裝備關係であるが、前回にも述べた如く、「ソ」聯は依然として航空機と戦車とに重點を置いて居る。抑々赤軍當局が、建軍の初に當つて飛行機に着目して之が擴張に最大の努力を拂つたと云ふことは非常な達眼であつたと思ふ。勿論彼等の抱懷して居る所の戦争指導方針は、將來の戦争は第一線を以て戦争の勝敗を決すべきものではない、第一線から其の國の中心に亘る範圍が戦線の全部である。

而かも其の中心部に動搖を起させ、その動搖を第一線に波及させて自然に第一線の崩壊に導く、それが爲には勢ひ長距離重爆撃飛行機を整備して、先づ中心部を擾亂に陥れ、之に思想戦を加へて戦争を勝利に導かなければならんと云ふのである。

さう云ふ戦争指導方針に基いて、航空機に絶大な力を盡し、その數に於ても、一九三一年までは僅かに五百内外しかなかつたものが、現在に於ては既に五千或はそれ以上に及んで居る。而して飛行機を整備改善に就てはどこに重點を置いて居るかと云へば、最近の傾向は依然として飛行機の速力の向上である。各種の飛行機とも其の速度を、從來二百キロ内外のものを、今後三百キロ以上にし、特に戦闘機は四百キロにしよう、こゝに重點を置いて現在どん／＼新式のものをつ造つて居る。また形式の上から云へば、短翼低葉、脚は折疊式のものを買揚して逐次整備替を行つて居る。前回全部の飛行機を整備が終つてから僅か一年内外しか

經たないのに更に新式のを以て編成替を行ふ其の決意と努力とに對しては驚嘆のほかない。この新式の装備は、先づ中心部のモスクワから始めて、續いて極東方面に及ぼして居るやうであつて、最近の情報に依れば、既にウラジオ、ニコリスク、ハバロフスク、ボチカレオ附近には新式のものが現はれて居る。その中でも特に優秀なものは戦闘機であつて四百キロ以上出て居る。また超重爆は從來は二百何十キロしか出なかつたが、今度の新型は三百二十キロまで増加した。ウラジオから三時間半内外で東京の空に現はれる所の能力を備へた飛行機を持つことになつた。従つて飛行機の數並に飛行隊の増加も非常に大きいものであつて、私がモスクワを出發する迄に得た情報を綜合すると、大體四十個旅團以上のものを整備したことは事實である。

次は戦車、之は最近新しい型は出てゐないが、快速優秀な戦車を以て逐次各部隊の装備替を行つて居る。大體装備の動向を見るに、七噸乃至十一噸級の戦車本

隊に二噸乃至三噸の搜索戦車を附けた所謂混成戦車隊を整備し、一方四十噸内外の突破用の大型戦車を整備して居る。また整備の大體の目途は、各軍管區に師團級の装甲車部隊を、軍團毎に聯隊級、師團毎に大隊級のを配屬する方針を以て逐次整備して居るやうである。

ホ、赤軍の能力

赤軍の能力は一體どんなものだらうか云ふ質問をよく受けるが、之に付ては装備、人的要素、編制、其の他の事を綜合しなければならぬので、總括的に簡単に述べることも出來ず、また結論に到達することも極めて困難であるが、大體を云へば、現在の赤軍の兵卒は帝政時代よりも非常に良いさうである。私は帝政時代の兵卒を知らないが、現在我々と一緒に居るフィンランド、ラトヴィア、エストニア、ポーランド等の外國武官は、大體舊帝政時代の露軍に勤務して居つた將

校が獨立後再び駐在武官としてモスクワに集まつて居る。之等の者の言を綜合すると、皆異口同音に帝政時代の兵卒よりも教育があり、訓練が徹底して居ると言つて居る。また我々の仲間の隊附をして居る者の話に依つても、露兵の射撃の上手な點、戰場に於ける報告動作の上手な點、對瓦斯戦の上手な點、この三點は遺憾ながら日本の軍隊は彼等に及ばないだらうと言ふて居る。その教育の非常に徹底して居るのは、單に歩兵だけではない。戰車隊にも徹底して居つて、戰車の銃眼に於ける射撃等も日本より遙に優れて居るさうである。この射撃に關する限り又瓦斯戦に關する限り、遺憾ながら彼等より學ばなければならぬ。

へ、高級將校の横顔

併し幹部に就て考へると、之は兵の能力に比し相當劣つて居るやうである。ただ高級將校の方になると相當違ふ。前に私が向ふに居つた時分には、外國武官あ

たりも、「何だ百姓の野郎が、横文字一つ讀めない癖に」と惡口を言つて居つたが、其の後次第に様子が解ると強ちそんなものではなく、既に十數年の經驗と周圍の環境から相當各自の訓練も出來て來、加ふるに年齢も若く、體力も相當旺盛であるし、また主義に極めて忠實であると云ふ點、並に此の間に相當の補充教育を受けたと云ふやうな點から考へて、之は到底輕視出來ないと云ふ様になつて居る。現に一九二三年の末から十三年間ずっと陸軍大臣をやつて居るヴオロシロフ元帥の如き、前回私が居つた時にはまだ垢抜けのしない點もあつたやうに思つたが、最近に會つてみると、相當の貫祿も出來、言ふこともシツカリして來た。また其の下に居る所の陸軍次官のトハチエフスキー元帥の如き、まだ四十五六歳であつて、元來貴族出身で、近衛將校であつたが、眞疑は判らぬが相當道樂をやつて、遂に停職處分を受けるころまで行つて居つた時に革命が起つて、都合よく革命軍に入つたから彼の今日があるのだと云ふ惡口を言ふ人もあるが、また教養

も非常にあつて、フランス語の使へるのはトハチエフスキー一人ぐらゐではないかと思ふ。之が最もシツカリした人物で、ロシヤに於けるナポレオンだと言はれて居る。次の元帥のブジョンヌイは、日露戦争の當時一騎兵下士官として帝政露軍に居つたのであるが、例のソ波戦争で偉勳を立てて今日の地位を得た。また前に述べたエゴロフ元帥は、舊參謀將校でスターリンの幕僚をして居つたことが今日の地位を得て居るのだと思ふ。其の他航空部隊に於ては皆年が非常に若くて、現航空本部長をして居るアルクスニスと云ふ人は三十八歳で、我々よりすつと若くてあの老大な空軍を主宰して居る。先般私が歸朝する前に大使館で送別會があつて、ヴォロシロフ元帥も来て、其の日は話が非常にはすんで、元帥は午後二時半まで居つたが、其の時私が航空本部長に、どうだ飲まないかと言ふと今日は許して呉れ。今から二時間半ばかりすると飛行機に乗つて飛ばなければならぬ。自分はメーデー觀兵式には毎年自から八百の飛行機を率ゐて空中分列式を

行ふ。其の豫行を明朝しなければならんから今日は飲むのを許して呉れと云ふ有様であつて、恐らく航空本部長自ら部隊の先頭に立つて飛行機を操縦して觀兵式をやるのは「ソ」聯以外にはちよつと見られないだらうと思ふ。其の他、軍管區司令官、軍團長、師團長に至つても皆十数年間の經驗と補修教育に依つて相當の事をやつて居つて、之は決して輕視が出来ない。

三、強化さるる國力

最近「ソ」聯が國力を非常に増進し且つ政府の力が強力無比であるが、一體それは何處から來たのかと云ふ質問をよく受ける。現在の政府が國家の全金力、全資源を自己の手に收めて權力を自由に振廻し、而かも最近に至つて各種の施設を強化して來た原因は、農産物を政府の手に掌握したことが唯一の理由であると思ふ。政府は革命後土地を全部國有とし、農業に關する限り之が使用を許し個人經

營をやらうとしたが、之は言ふ迄もなく資本主義經濟機構であつて、放つて置けば必ずや現在の政府のやり方と變つた方向に行くものである。従つて之を或る時には彈壓しなければならんが、彈壓すれば農業の收穫高が減つて來る。無理に徴發したり安く買ひ上げれば、陰匿したり作付段別を減じたりするやうな事が起つて來て、政府の思ふ通りに行かない。その爲に農村政策は毎年變化せられて來たのであつて、結局第一次五ヶ年計畫をやる迄には政府の思ふやうにならなかつたけれども、第一次五ヶ年計畫に於て多數の器材を外國から買はなければならぬ。その決濟はどうしても農産品に依らなければならぬ。従つて早く農産品を政府の手に收めて之を統制しなければならなかつた。そこで例のホルホーズ組織を非常な勢でやつた結果、農村は豊穰化して農産品は政府の手に入つて來た。斯くして以前からやつて居つたところの工業生産品も、農業生産品並に商業機關も、政府がすつかり統一し、自由に行ひ得るやうになつて、その結果、政府の所得も殖え

て來、また農産品の處分も極めて容易になつて、政府が所謂獨裁政治機構、經濟機構を安定し得たのは漸く茲二三年のことだと思ふ。斯くの如き獨裁政治に於ても一つの問題を解決する迄は十數年を要したのであつて、總ての問題を解決することの中々困難なることを示す一つの證據ではないかと思ふ。現在に於ては總てのものが全く政府の手に收まり、最近に於ては町の四つ角に居る靴磨まで政府の手に依つて統制することが出来るやうになつた。

四、民心安定の程度

次に民心の安定であるが、よく此の點に就て、「ソ」聯に居る反政府の者はどう云ふ状態であるか其の力はどうかと云ふ質問を受ける。大體三十五六歳以上の人々は、現在の政府を心から信頼してゐない、寧ろ反感を持つて居る。之は革命當時大なり小なり、持つて居つた物を沒收され、且つブルジョアとか何とか云つて壓

迫を蒙つた關係上、反感を抱くのも已むを得ないと思ふが、併し最早反抗的勢力の何ものもなく、且つ老年組であるから毎年死んで逐次少なくなると云ふ關係でこの方面に於ける反抗力は問題でない。一例を挙げれば、從來外貨で買ふところのトルグシンと云ふ販賣制度があつたが、本年の二月一日に廢止になつた。之は初めは外人の爲のものだと言つて設けたのであるが、實は之が民間に散在する金銀財寶を集めるには一番よい手段であつた。その結果八億内外の金銀財寶を集めてしまつた。即ちモスクワ以外の各地にもトルグシンなる店を設けて、其處に食料品でも衣服でも最も良い品物を集めて個人の欲望を煽つた。結局個人は外貨は持つてゐないから、虎の子のやうにして居つた自分の指輪やダイヤモンドや時計の側は勿論、苟くも自分の持つて居る金銀は殆んどトルグシンに持つて行つて品物に代へた。然るに昨年年初め、田舎の方ではトルグシンを閉鎖した。と云ふのは、人民の持つて居る物は皆捲上げて、最早誰も買ふ者がなくなつた。モスクワ

あたりの賣上げも段々減つて來て、「ソ」聯に於ける貨幣の價值を上げるとか統一するとか云ふやうな名目でトルグシンを閉鎖してしまつたが、結局之に依つて民間に散在して居た金銀は全部政府の手に收めて、人民は何ら財力のないものになつてしまつた。さう云ふ譯で、年を取つた者は大體に於て政府をよく思つてゐないけれども力がない。

青年の方は、「ソ」聯で育つて「ソ」聯以外の事は知らない。唯お爺さんお婆さんに帝政時代の話をして貰ふだけである。それは恰も我々が子供の時分に丁醫の話をお爺さんお婆さんにして貰ふのと同じ感じである。たゞ現在の政策に對する非難はあるやうであつて、殊にモスクワ、レニングラードあたりの大學の學生には、時々反政府熱を擧げる者がある。即ち日本で云へば一種の左翼運動であつて、「ソ」聯にも左翼運動がある譯である。彼等は學校に於てマルクス主義その他の教育を受けて、現在の政府がやつて居るところを見ると、理論と實際に非常に

差がある。之に對する運動であるが、政府は之に對して、一方に於ては、共產主義は我々の理想だが之は今やることは出来ない。已むを得ないから其の階梯として社會主義機構の建設に努めて居るのだ、之が完成すれば我々は進んで共產主義に移るのだからと説明すると共に、一方之等の學生に、所謂トロツキー一派の反對黨だと云ふ罪名を着せて、之をどん／＼彈壓して居るが、とにかく學生間に反政府運動が起つて居ることは事實である。

また一般人民から觀ると、一億數千の人民が一番苦しんだのは第一次五ヶ年計畫當時である。私がモスクワに一番初めに行つたのが一九二九年の初めで、恰かも第一次五ヶ年計畫の始まつた年である。それから歸つて一年餘り經つてポーランドに赴任する時に又モスクワに暫く滞在して、田中大使が居られた當時であつたが、その一年半の間にモスクワに於ける個人の生活が非常に悪くなつたのが眼に見えて居つた。それから二年半ばかり經つてポーランドから歸る時に、もう一

度「ソ」聯を見ようと思つて一ヶ月ばかり廻つて見ると、それは實に酷いものであつた。人民の生活は全く沙漠のやうで、あれだけを見て居ると、一方に政府の建設計畫を進める爲にどん／＼強行政策をやつて、果して旨く行くものだらうかと云ふ疑問を生じた。全く第一次五ヶ年計畫當時に於ける「ソ」聯の一億數千の人民の苦しみは例へようのないほどであつた。それは、茲に説明する迄もなく、農産品をどん／＼海外に出して國民の消費を極度に制限した結果である。一時はウクライナの方に於ても相當の餓死者を出したと云ふやうな事を聞いたが、要するに國民は食ふ物もない、着る物も履く物もない。殆んど何も與へられることなくして此の期間を經過した。併し政府としては、ともかく第一次五ヶ年計畫は苦しんだが、第二次になつたらお前等の生活は良くなるのだと云ふ一つの希望を與へて引張り／＼來た。而して第二次五ヶ年計畫に入るや、國民に對する前約を履行しなければならんし人民に若干の休養も與へなければならんし、強行政策を以

て外國から器材を買ふ必要がなくなつた、外國に對してもあまり農産品も賣れないと云ふやうな、各種の原因が集まつて、國內に出來た農産品の大部分を人民に食はすと云ふことになつて來て、今や大體に於て食ふに困らない程度になつた。また第二次五ヶ年計畫に於て輕工業の方に重點を指向した關係上、各種の物資も非常に現はれて來た。私が今度行つて見ると、人民の生活状態の良くなつたことは非常なものである。人民にして見れば、自分等の欲望を未だ満足さすことは出來ないが、とにかく段々生活が良くなつて來た。さうすると此の政府はやつて呉れるなど云ふ氣持からして、政府に對する信頼心が段々濃くなりつつあるやうである。また政府に於ても、大衆を指導すべき位置に立つて居る共產黨員の行動を監視して、眞に大衆の模範となるべき人物だけを集めようなど云ふ事には非常な決心を持つて居るやうであつて、現に昨年一月一日から本年の六月一日まで一ヶ年半の間は、新共產黨員の入黨を停止して、一年半掛つて、各種共產黨員個々の

行績に就て嚴密なる検査を行つて、その結果、私が向ふを出發する迄にさへ、どれほど淘汰されたか分らない。部分的の發表に依ると、多い所は半分以上の共產黨員が除名されて居るやうな有様であつて、政府としては飽まで共產黨を清めて黨員の活動に依つて、各種の建設事業を進めて行かうと云ふことに最大の努力を拂つて居るやうである。また最近では人民の方でも、共產黨員の中には權力を持つて威張る者も居るけれども、(我々日本人の言葉で云へば)とにかくお國の爲に自分の一身を忘れて盡してゐると云ふ氣分が民間に逐次反映して來て、共產黨員は偉いものだ、よくやつて呉れると云ふ氣分が段々殖えて來たかのやうに觀察された。従つて將來突發事變のない限り、現在の政權は爾後の建設事業を着々進めて行くものと思ふ。また人民の過去の苦しい立場を成るべく内に向けない爲に絶えず民心を外に向けようとする政府の努力は非常なものであつて、共產黨の大體の教育も、彼等の觀る國際情勢を絶えず注入して居る。最近日獨兩國に對する國際

關係の逼迫其の他からして、遂にインターナショナルの思想を棄てて偉大なる祖國愛と云ふやうなモットーに變つて來たことは我々の注意を要する點である。

五、西隣諸國との關係

次に一般の對外政策であるが、諸般の事象に就ては、茲に述べることを省略し、ただ自分の感じた一二の點に就て述べたい。

最近「ソ」聯の國力増進、殊に其の軍備の充實は、とにかく今まで「ソ」聯に楯突いて居つた西隣諸國を壓倒して、特にドイツの勃興に依るフランスの溺れんとする者は藁をも掴む政策から、「ソ」聯と手を握つて國際聯盟に入れると云ふやうな運動も手傳つて、最近二ヶ年間に於ける「ソ」聯の國際的地位が非常に膨脹して來たことは諸君の御承知の通りであるが、最近は「ソ」聯と英國との接近が著しく目に着くやうになつた。之が實際に果して幾何のものがあるか私自身もよ

く知らぬが、とにかく昨年イーデンがモスクワに飛込んで以來、少なくとも具體的の問題としては英蘇の經濟的提携が着々進みつつあるやうである。從來「ソ」聯の對外貿易の重點はドイツにあつた、次いで米國に向つたが、遂に米國との關係も冷かになつた。それに附込んで來たのが英國であつて、爾來「ソ」聯の對外貿易の重點は英國に指向されて居るやうである。其の間トルコ、イラン、イラク、アフガンとの不可侵條約締結に關する英ソ間の默契とか、或は極東情勢に關して英露間に何らかの默契があるとか、各種の風説があつたが、之は私はよく判らない。とにかく「ソ」聯に居つて觀て居ると、「ソ」聯が英國如何にも自分の方に引入れたやうに、また英露の關係は益々良好になりつつあることを絶えず宣傳して居る事だけは事實である。之は我々として將來相當注意を要する問題ではなからうかと思ふ。

「ソ」聯の西隣諸國が殆んど「ソ」聯に壓倒されて居る中に、獨り「ソ」聯に楯

突いて居るのは一番北にあるフィンランドである。元來フィンランドと「ソ」聯の國境のカレリア地方にはフィン族が澤山住んで居る。このフィン族が同族の關係から絶えずフィンランドの方に密接な聯繫を執るやうになつて居る。またフィンランドも大フィンランド主義からカレリア地方に関心を持つて居る關係上、あの方面に始終たたくが起つて、最近になると「ソ」聯は、斷乎として此の禍根を一掃する爲に、カレリア地方に居つたフィン人をどん／＼シベリア地方に追ひやつて其の跡にロシア人を入れた。また從來カレリア旅團と云ふ民族旅團があつたが、之も解散して全部ロシア人の兵隊を持つて行つた。

其の他は、エストニア、ラトヴィアに就ては特に言ふ迄もない。ポーランドは猫の眼の變る如くドイツに附いたり「ソ」聯に附いたりして居るが、現在はドイツと非常に親交を結んで、「ソ」聯との間は非常に悪くなつて居る。ルーマニアは以前はポーランドと軍事同盟を結んで兄弟分になつて居るが、フランスの對露政

策の變更に伴つてポーランドとの關係が薄くなり、最近に於ては益々親露政策を執りつつある。トルコ、ベルシヤは全く「ソ」聯の傀儡に傾きつつある。アフガンは依然として「ソ」聯と親交を續けて居るやうである。新疆との關係は、之もモスクワでは詳しい事は判らないが、大體に於て政治上並びに經濟上の實權は、「ソ」聯が握つて居るやうである。但し政治機構の改革までには尙ほ進んで居ないと云ふのが實情らしい。外蒙との關係は、既に相互援助條約案が發表されて、名實共に「ソ」聯の勢力下に入つた。最近に於てはモスクワ、オレンブルグ等に多數の軍人學生を送り、之を學校に入れて軍事教育を施して居る。モスクワ市内でも、散歩して居ると、蒙古人の顔が相當見えるやうになつた。「ソ」聯の軍隊と殆んど同じ服装をして居る。

六、對日感情の變轉

次は特に對日關係であるが、個々の事情に就ては省略し、モスクワに居つて感じた點だけを述べたい。

イ、なか／＼神経過敏だ

前に私が行つた當時は、北鐵問題を繞つて今にも戦争が始まるやうな重い空氣であり、政府としても盛んにさう云ふ宣傳をして居つた。併しながら其の當時はまだ、日本が怖いのだと云ふ感じが我々にも映つて居つた。次いで昨年五月であつたか解決するや、一般人民は、之で戦争はなく済んだと、胸を撫で下した感があつた。また政府自體に於ても、新聞雜誌を通じて、日ソの關係が好轉して來るやうなことを、少なくとも宣傳だけはして居つた。我々自身も、この調子で行けば日ソの關係は改善されて來るのではないかとまで考へた位である。然るに其後八九月頃になると所謂北支問題が起り、どうも日本が北支に手を着けるらしい

と云ふ譯で、俄然態度を一變して對日感情は再び非常に悪くなつた。彼等の言ふ所に依れば、日本は戦争資源がないから北支に於ける石炭、棉、鐵を手に入れて茲に眞剣に戦争準備を始めた。斯様に宣傳して日本を盛んに攻撃して居つた。又その前後から突如として日獨軍事同盟説が非常な勢を以て宣傳されるやうになつた。恰も私が日本に歸つて何らかの使命を授かつてモスクワにも寄らずに直ちにベルリンに行き、何かの使を果したと云ふやうな噂が立つて、實は私自身相當に壓迫を感じた次第である。其の他、私に關して色々な新聞記事も出て、全く私を追ひ出すやうな形になつて來たのであるが、兎に角さう云ふやうにして日獨軍事同盟説が非常に喧傳されて、前に述べた百三十萬の軍備擴張も一は之に理由附けてゐる。即ち最近の情勢から考へると、戦争の發し易い所が二つある、それは極東に於ける日本と西に於てはドイツである、我々はどうしても此の二つの正面に同時に戦争が起ることを考へなければならぬ、従つて我がソ軍の兵力は兩正面同

時に戦争が起つても各々獨立して戦争が出来るだけの準備をしなければならぬと、之が百三十萬擴張案の理由の骨子になつて居る。次いで滿蒙國境に色々な問題が起つて來たが、それは某駐在武官が關東軍に打電して具申した爲に發生したのだとか、續いて年末から年始に掛けてソ滿國境其他に於て國境事變が頻發するや、之も、初めの間はさうも感じなかつたが、要するに向ふでは、この事件は中央部に確乎たる意志がないからと考へ積極的に叩き潰した方が宜からうと云ふ考で、しまひには相當強硬な態度に出る様になつて來た。

ロ、二・二六事件の與へた影響

そのうちに二・二六事件が起つた。之は初めは「ソ」聯の上下に對して相當衝動を與へて彼等は非常に驚いた。勿論我々も驚いたのであるが、彼等が初めに考へたのは、之は愈々日本の軍部がクーデターをやつた、さうするとドイツのヒツ

トラが成功したと同じ關係のものが出來、直にでも戦争が始まるかも知れないと云ふ感じを與へたやうである。併し時日の経過と共に内容が判つて來た。尤も幾ら今度の事變の内容が判つても彼等の頭にはよく理解出來ないやうであつた。之はロシヤ人のみでなく、事變當時私の所によく各國の者が聞きに來たが、私がよく知らぬ關係もあつたかも知れないが彼等には理解出來ないらしい。それは結局日本の國體が解つてゐないからだらうと思ふ。だから今度の事變も、彼等から言へば、一種のクーデターであつて、苟くもクーデターを敢行したならば新政府が出來て、新政府の綱領が發表されさうなものだが、それもなくて、前内閣の片割が繼いでまだ政權を握つて居る、その上に 上御一人が居られて、しまひには上御一人の御言葉で兵隊が歸順してしまつた。この間には何があつたのかサツパリ解らぬ。さう云ふ風に、とにかく彼等から觀れば有耶無耶に終つたのであるが、茲に彼等が一つの確證を握つたのは、要するに日本の軍部は統制が取れてゐ

ない、斯う云ふ軍隊ならば戦争しても負けないぞ、之だけは彼等の頭に確實に入つたやうである。

ハ、大膽になつた彼等の言動

それ以來彼等の言動は非常に大膽になつて來た。その二三の例を擧ぐれば、ヴオロシーロフ元帥は、到る處に行つて、我々が資本主義の國と戦争して勝つか負けるかと云ふ事を考へたのは既に過去のことゝに屬する、現在に於ては、如何にせば最小の犠牲を拂つて彼を撃滅し得るか云ふ事を考へる時期が來たと言つて居る。又或る會談の席上「國と國とが仲の悪い時には一度戦争してみるのが宜い、戦争してみると其の後は案外仲善くなるものだ、日本と「ソ」聯も此の際思ひ切つて戦争した方が却て宜くはないかと思ふ。」またヴオロシーロフは、我々は戦争を欲しない、併し戦争は怖くはない、だから相手から仕掛けられれば之に對して

何時でも立つだけの決心と準備は持つて居ると云ふことを堂々と言つて居る。之が最近の彼等の意圖であること考へることは勿論早計であるが、其の他新聞雜誌に於ても彼等の態度は相當強くなつて居つて、私が行つた當初と終り頃とでは非常な變化がある。

ニ、世界へ排日宣傳をやる

また日本に對する從來のやり方を觀て居ると、國內に於ける對日認識の統一に就ては非常な努力を拂つて居る。同時に恐日觀念も國民から取去る爲には非常な努力を拂つて居つて、先般起つた國境問題その他に就ても、悉く「ソ」聯の兵隊が強くて、日本の兵隊は全く弱くて、あんな元氣のないひよろ／＼したのは直に撃退すること云ふやうに、如何にも赤軍が強くて日本軍は弱いと云ふ宣傳をして居り、また一方に於ては、事件ある毎に、日本は此の通り侵略主義だと誇張的にヨ

ヨーロッパ方面に宣傳して居る。之は何とかしなければならんと思つた。先般日本の飛行機が露領に落ちた事がある。その落ちたのは午後六時半であるが、その晩の十二時には太田大使を招致して「ソ」聯の外務省が抗議をして居る。一方直ちにヨーロッパの方にタスを以て通報し翌朝にはヨーロッパの新聞に全部出てしまつた。それから二三日経つて漸く日本から言ふて來た。それでは殆んど効果が無い。また金廠溝の事件の時は、問題の起つたのが確か二時半だつたと思ふが、之も午後十時には太田大使を招致して抗議して居る。その通信處置の迅速な點は誠に驚嘆に値する。私は今回歸りがけにベルリン、ポーランド方面に行つて來たが、あの方面の邦人は齒を喰ひしばつて憤慨して居るが如何とも出來ない。とにかくパツとヨーロッパの新聞に出し、一度新聞に出た事は、あとで訂正しても何もならぬ。だから極東に起つた事件のみならず總ての事件は大體に於て日本が悪者になつて居るやうである。其の他の宣傳も「ソ」聯は中々上手であつて、最近の排

日宣傳方法を觀て居ると、決して自分では排日記事を書かない。世界各地に分散して居るタス通信員に、その國の新聞でも雑誌でも宜いから苟くも日本の悪口を書いて居るものは全部モスクワに報告させて、それを毎日どん／＼掲載する。北平電もあれば上海電もあり、ニューヨーク電もあればチエツコ電もある、色々な方面から來るから、人民は、さうするに日本が悪い。俺の國の政府が日本の悪口を言ふだけではない、世界を擧げて日本の悪口を言つて居ると云ふ觀念を養はれる。之は我々が將來大いに注意しなければならん點だと思ふ。

七、極東武装の姿を視る

まだ私はウラジオ方面を視てゐなかつたので、今回は北からウラジオ經由で歸つて來た。その状況を若干述べると、チタからハバロフスクに至る複線工事は全部完成し、僅にゼーヤ川の橋梁が残つて、之も橋脚だけは出來て居つたから、恐

らく一二ヶ月の間には完成するだらうと思ふ。ハバロフスクとニコリスクの間は目下盛んに複線工事中である。小さい川の橋脚などは全部ベトン工事が完成して居つて、目下土工を盛んにやつて居る。少なくとも今年の秋までにはモスクワ、ウラジオ間の複線は全部完成するであらう。

バム鐵道に就てあるが、幾らロシヤの事でも、この鐵道は半年や一年で完成するものではないが、先般もカガノヴィチが工事視察に巡つて来たから、より一層速度を早めて、明年度に終るべき筈であつたのが少なくとも今年の秋までには完成するであらう。

プレーヤの工業地帯建設も目下の所まだ相當の時間を要するやうではあるが、豫定よりも早く出来るであらうと思ふ。コムソモリスクに於ける軍需工業も着々やつて居り、ハバロフスクに於ける製油工場も完成して、極東に於ける自給自足の施設も一步步々進んで居るやうである。

昭和十一年八月二十五日印刷
昭和十一年八月二十九日發行

編纂兼
發行者 猪 瀬 乙 彦
東京府北多摩郡三鷹村深大寺三九四番地

印刷者 横 山 才 四 郎
東京市麹町區九段一丁目五番地

東京市麹町區九段一丁目五番地

發行所

帝國在郷軍人會本部

終

